

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170201691		
法人名	株式会社マシメディカルサービス		
事業所名	グループホーム ラポール北原台		
所在地	埼玉県川口市北原台1-6-1		
自己評価作成日	平成25年8月10日	評価結果市町村受理日	平成25年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/information_Public.do?cd=1170201691&scd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2F
訪問調査日	平成25年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事として1月の「もちつき大会」、4月「桜祭り」、8月納涼祭、12月の「クリスマス会」を行い、施設を開放し、地域の方や事業所や家族の方を招いている。 ・年2回、春、夏に日帰り旅行を行っている。(春 全体旅行 秋 ユニット旅行) ・系列の益子病院との連携によって医療面でのバックアップ体制が充実している。 ・毎年、浦和大学短期大学部の実習生を受け入れ、介護職の人材育成とご利用者の生活の活性化を図っている。 ・ポイント制度の導入や役割分担表を作成し、ご利用者の意欲を引きだす工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>フロアや階段には行事や日常の場面が写された写真が数多く貼られている。事業所を訪れた家族等が日常を知ることができ安心できる材料となると感じた。また、フロアに貼られた写真は利用者や家族、職員とのコミュニケーションツールともなっている。各ユニットに特色があるが、カシオペアでは毎月「カシオペア新聞」を作成し家族へ送付している(家族に好評である)。アニマルセラピー等のボランティアとの交流や春と秋の旅行等イベントが数多く用意されており利用者が日常を楽しめる環境が整っている。「ポイント制度」の導入は、利用者にとって達成感や喜び、目標を達成しようとする生きがいにつながると感じた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

オリオン座

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型事業所としての理念をつくり、フロアに掲示し職員に周知徹底させている。春にさくら祭り、夏に納涼祭を開き、地域に施設を開放し、地域との交流を行っている。	掲示されている理念を職員は確認している。管理者と職員は、理念を具体化できるよう日々の実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の公園清掃に参加したり、町会の夏祭りに参加して交流を図っている。散歩時には、地域の方と挨拶を交わし、立話をしたりしている。	町会の夏と春のお祭りや、清掃等交流を行っている。近隣の方とも野菜を頂く等日常的な交流がある。事業所で開催されたお祭りに地域の方も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で「認知症の勉強会」を開催している。施設行事の桜祭り、夏祭りでは地域の方々にチラシ、ポスター等により参加、見学を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開催し、ご家族、地域住民、他の事業所に参加していただき、意見交換を行っている。提案されたご意見に関してはできるだけ取り入れるようにしている。	2か月に1回、偶数月に会議は行われている。イベントと併せて行うなど工夫している。参加者は、家族、民生委員、地域包括支援センターの職員が参加。様々な意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の担当者や戸塚地域包括支援センターの担当者と密に連絡をとり、協力や相談にのっていただいている。	介護保険課の担当者や、地域包括支援センターの担当者とは密に連絡をとっている。事業所に対してアドバイス、支援がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」についての勉強会を実施し、職員に身体拘束の対象となるケアについての周知徹底をしている。安全面を考え、フロア入口は常に施錠しているが桜祭り、夏祭りの際はフロアを開放している。	勉強会を通して「身体拘束」については周知徹底している。コミュニケーションについては、命令口調等「スピーチロック」にも気を付けケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」についての勉強会を実施、職員に理解させている。虐待のニュースが申し送られ、ニュースの記事が掲示版にも掲示され、虐待防止の徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「東京大学市民後見人養成講座」の実習生を受け入れ、同時に職員にも成年後見制度について学ぶ機会を設けている。ご家族から要望があった際には説明し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、施設長が実施することで、統一した説明、契約締結をするようにし、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、お茶の席で、ご利用者より意見を伺っている。(茶飲み話しノート)を活用)御意見箱を設置し、意見があった際は、全体会議等で検討している。	利用者の意見は、お茶のみ会を通して伺っている。特に男性が意見を言いやすい場となっている。家族へは主に面会時に要望を伺っている。伺った意見は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体会議、ユニット会議を行い管理者も含め、意見交換を等行っている。	ユニット会議、全体会議は月に一度行われており、活発な意見交換がされている。会議で決まったことはすぐに実践されている。個別の相談等についてもリーダー、管理者と面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回人事考課を通して、スタッフ1人1人の努力や実践、勤務状況を把握し、賞与などに反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修の告知によって、場合によっては勤務として参加できる。今年度より2か月に1回内部研修を行っている。(内部研修年間予定表に合わせて)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて、他施設のスタッフと交流を持ち、お互いの情報を交換し、サービスの質の向上を図っている。戸塚地区のグループホームで連絡会を作り、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たってご自宅や入院先に伺い、本人の思いや訴えに耳を傾け、なるべく希望をかなえるようにご家族と協力している。体験入居を取り入れご利用者の普段の生活を把握し、入居していただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、キーパーソンだけでなく、他のご家族、御親戚やケアマネなどの意見を伺い、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン等で現在の利用者の状態を見て、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りなど、一緒にできることは行っている。また、行事がある時は一つ一つの飾り付けなどについても利用者に協力していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や面会、行事で来られた際に、利用者の日頃の生活状態を説明するよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙など本人が希望された場合はポストに出しに行っている。	携帯電話を使用することや手紙を書く等、兄弟や知人と連絡がとれる環境が整っている。墓参りやディズニーランド、理美容院等、本人の希望する場所に行くことができる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同志の関係を把握し、仲の良い方々で作業や散歩を行うようにしている。他の方とコミュニケーションがうまくいかない方スタッフが間に入り、他者と交流を図れるようにしている。(レクを通じて)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先にお見舞いに伺っている。亡くなったご利用者の葬儀に参列して冥福を祈っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さなことでも訴えがあったら話を聞き、自分で対応できない場合は、上司に相談している。	暮らし方の希望等は入居前に伺っている。利用者がここでの暮らしを安全で楽しいと思ってもらえるよう、利用者から得られた情報は職員間で十分に共有し、実践に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント、サマリー等を参考にしたり、スタッフ同士の情報提供、声掛け会話等によって努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、スタッフ同士の情報提供、声かけ、会話等によって努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やケアプラン会議を行い、日々の生活状況報告等を行い、ご利用者が快適でいられるよう努めている。	ケアプラン会議にて、利用者、家族の意見を反映できるよう話し合いを行い、計画作成している。会議に家族が参加する場合もある。計画効果検証から次の計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、記録、申し送りノートを確認し利用者のケアプランに対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や意見、希望を把握し、施設での生活が快適でいられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	紙芝居などのボランティアに来て頂いたりアニマルセラピーを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診の他、緊急時、家族との連携を取り、適切な処置ができるようにしている。	利用者、家族の希望を伺ったうえ、現在はグリーンセンタークリニックの往診が行われている。その他利用者の状況に応じて地域の医療機関と連携を図りながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診ノートを活用し、介護スタッフ、看護師が利用者一人一人の健康状態を共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じグループ内に病院があり、医療機関との情報交換と相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長が利用者のご家族様に「重度化した場合における看取りへの指針」についての説明を行い、ご家族様、ご利用者様の意向を確認している。	事業所での対応については「重度化した場合における看取りへの指針」を用いて、入居前に家族に説明している。併せて家族、利用者の意向を伺っている。状況により、医師と家族の話し合いが行われる。事業所としてできるところまで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスク、教育委員会の会議を月に1回行い、各ユニットにマニュアルを作成し、各々把握できるようにしている。急変時の確認も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を実施し、(年2回)。当日参加できないスタッフに対してもマニュアルを作成し、安全に誘導できるよう徹底している。	年2回(4月、10月)に避難訓練を消防署の日程に合わせて行っている。消防署員より消火器、AEDの使用について指導を受けている。マニュアルと訓練を合わせて、災害時の対応を周知徹底している。	地域の方の訓練の参加や、災害時の協力体制の構築がこれまで以上にすすむことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の気持ちを尊重して個別の状態に応じた対応をしている。 言葉遣いに気をつけ、常に尊敬の気持ちをもって接するよう努めている。	同性介助を心がけている。トイレの声かけもトイレという言葉を使わない等誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。また、性差や思い等に合わせた言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自分の気持ちをはっきり表現できるように傾聴の姿勢を常に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアや居室にて自由に生活していただき食事や入浴に関してもその日の体調や気分により時間をずらしたり、中止したりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の服装や髪型に常に気を配りおしゃれが楽しくなるよう声かけをするように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、準備をご利用者と一緒に行っている。嫌いな物、食べられない物は、他の物を提供している。 片付けなども、ご利用者の負担にならない程度にお願いしている。	家庭菜園で採れた野菜をみそ汁や、漬物として提供している。食前、食後の声かけ当番や食器洗い等役割がある。誕生日会の外食や手作りの食事等も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量の記録により、個々の摂取量を把握し、少ない場合はどうしたら摂取してもらえるか、ケアカンファなどで話し合っている。水分摂取に関しても、必要に応じて記録して飽きのこないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々口腔ケアの声かけで促し、場合によっては一部介助にて口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを理解し、トイレでの排泄をしていただくようにしている。	排泄状況を細かく記録し、個々の状況に合わせて失禁に至らないように対応している。トイレでの排泄が行えるよう性格も考慮した声かけも行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂って頂いたり、少しでも運動(操、散歩)していただくようにして、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望する時間が重なってしまうときは、ローテーションして入浴していただいている。入浴剤を入れ楽しんでいただくよう努力している。	曜日を固定せず、週3回を基本に利用者の意向に合わせて入浴を提供している。シャンプーやリンス等、本人の使い慣れたものを使用してもらっている。入浴剤も使用し楽しめる環境をつくっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣や、その時の状況に応じて休息や、エアコン温度、布団の量を随時、チェックし、必要に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診ノート、薬情を各自確認し、スタッフの服薬確認者の明確化を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活支援分担表を用いて1人1人役割を持っていただいている。 気のあった職員とのマンツーマンでの外食やカラオケに行き気分転換を図っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回(春・秋)ご家族やボランティアも参加し日帰りバス旅行を行っている。 散歩に出かけたり、希望により買い物やファミリーレストラン等に行っている。	近隣にあるショッピングセンターやコンビニエンスストアへは日常的に出かけている。春の旅行は個別対応、秋の旅行はユニットごとに行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で行っているが、自己管理できる方には、持つことも了承している。買い物時などできるだけご自分で支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ペースメーカーを入れているご利用者がいらっしゃるので携帯電話の所持はお断りしている。 手紙をだしてほしいと依頼された時は、ポストへ出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計、湿度計をみてこまめに空調の調整をして居心地のよい環境となるようにしている。フロアに季節ごとの壁画を貼ったり、季節の物(例 クリスマスツリー)を飾っている。	食事時にBGMを流すことや、空調に配慮する等快適な空間づくりを行っている。利用者と一緒に作った作品が飾られていることや、季節の花も活けられており季節感にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と隣になるよう、ソファやテーブル席を配置している。ソファ席以外にも椅子をとこどこにおいて独りになれる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたタンス等の家具を持ちこんでいただいたり、仏壇をおいて朝、晩拝んでいらっしゃる方もいる。居室に写真などを飾ったり、使い慣れた物を置いている。	個々に自宅で使用していた家具等が置かれている。趣味、写真、飾り物等、自由に持ち込むことができる。個別性に配慮した居室の提供ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは段差のないバリアフリーで、要所、要所に手すりを配置し、できるだけ自力歩行ができる環境となっている。ダイニングを囲む形で居室が配置されており、食事の準備など手伝いやすい環境である。		

自己評価および外部評価結果

カシオペア座

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をフロアに掲示し、職員の周知徹底を図っている。地域の方の交流の場を設け施設へ来ていただく機会を多く取り入れている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の公園清掃や町会の夏祭りに参加している。地域の方に行事などの参加をいただいている。 施設内をオープンにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者との交流の場を設け、顔を知っていただけるよう努力している。 運営推進会議の中で、「認知症」の勉強会を実施し、地域の民生委員等にも参加していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実施している。 状況報告を行ったり、意見を求めている。 ご家族等から提案されたご意見はできるだけ取り入れよう実践している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に戸塚地域包括支援センター職員に出席していただいて意見をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関(フロアの扉)の施錠は行っている。 身体拘束は行わず、事故のないようケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待」についての勉強会を実施し、職員に虐待の定義と防止について周知徹底させている。虐待の報道があった場合、新聞記事などを掲示し、防止についての意識付けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「東京大学市民後見人養成講座」の実習生を受け入れ、同時に職員にも成年後見制度について学ぶ機会を設けている。ご家族から要望があった際には説明し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が契約事務・説明を実施し、理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	下駄箱に意見箱を設置し、また、運営推進会議にてご意見を伺っている。面会時にご利用の状況を説明し、施設に対してのご要望やご意見なども伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体会議、ユニット会議を行い意見交換を等行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課と目標管理シートによって個々の勤務状況を把握し、目標を達成できるように支援している。また、職場環境・条件の整備にも努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を告知して研修希望者は、勤務として参加できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームを見学したり、戸塚地区のグループホームのネットワーク作りにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご利用者の自宅や入院先などに伺い、直接、ご利用者から不安なことや、ご要望を伺い、できるだけ安心して入居していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅や入院先などに伺い、ご利用者やご家族に要望を伺っている。ケースによってはケアマネやキーパーソン以外のご家族にもお話を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族の要望を優先的に取り入れケアに活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ができることは、ご自分で行っていた抱くようにしている。戦争や大正、昭和の生活についてお話を伺うことで、むしろ、ご利用者が主体となり、生きた歴史を次世代に伝える役割を果たされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会の依頼をしたり、行事等に積極的に参加していただくよう努力し、ご家族との交流の場を多く持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に見えたときには、ご利用者と気持ちよく話ができるよう心掛けている。手紙などご利用者が希望された時はポストに投函している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活で交流する場を多く設け、スタッフを仲介に良い環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過をご連絡いただいている。 入院された場合はお見舞いに伺い、経過をみている。 お亡くなりになった場合は、葬儀に参列し御冥福を祈っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、ご利用者の意向を聞き入れご家族に協力を得たりして行うよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中で、ヒントを見つけ、会議ケアプランで話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを中心に、変化に気づき対応している。 介護記録にご利用者の言動をできるだけ詳細に記録し、小さな変化から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の意向を伺い、会議、ケアプランの中で話し合いを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、申し送りの徹底をしている。 職員間のコミュニケーションの充実を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、変化があれば申し送り、早急な対応が必要であれば、迅速に対応する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の夏祭り参加や紙芝居のボランティアに来ていただいたり、アニマルセラピーの実施などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	系列のグリーンセンタークリニックより1か月に2回、往診を受けている。他耳鼻科、皮膚科、眼科などはご家族と連絡し迅速に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	フロア内での申し送りを徹底し、看護師へ状況説明を行い、判断を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的に入院対応は系列の益子病院で対応しており、主治医、看護師、MSWとの連携も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の要望を重視し、施設で可能な限り対応している。対応困難が見込まれる場合は、早めに今後の展望をご家族に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	教育委員会を中心に指導している。勉強会を開いている。防災訓練を実施する際、消防署の職員にAEDの研修等も実施していただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋に年に2回の防災訓練の実施。参加する職員に偏りがないようにしている。イベントなどで地域住民との交流を深め、災害時に協力していただける信頼関係を築くよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ親しんで信頼関係を結ぶ事での声かけに対して、再認識する必要がある場合もあり。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけを行い、話しやすい環境を作っているが、全員に均等に伝えていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定によっては職員の都合によってしまう時がみられる。 (イベント、会議などがある日)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ、衣類はご自分で選んでいた抱くようにしている。季節にあった衣類が選べない方に関しては、声かけ助言している、		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りや盛り付け、片付け等できるだけご利用者に行っていただいている。手作りの日を設け、皆さんで作ったり、外食の日を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックは、必ず行っている。嚥下状態の悪い方に関してはとろみ剤を使用している。水分もまめに提供している。フロアにお茶のタンクを設置し、ご利用者が自由にお茶を飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者のレベルに応じて、毎食後、声かけ、見守り、介助にて口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科の受診があり、定期的にみていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけしている。 一人一人のパターンをつかみ、個別に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を取り入れたり、水分摂取をしたり、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回のペースで入浴していただいている。 希望のタイミングが重なるときはローテーションしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制することなく、ペースに合わせるようにしている。フローと同一階にあり、こまめに居室で休める環境にある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報を閲覧することにより、薬の内容や服作用を理解している。症状に変化があった際には看護師、主治医と迅速に連携し、対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を把握し、日々のコミュニケーションを通じて情報を得て、ケアプランを通し話し合い、理解し対応できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的に外出したりできるよう支援している。希望に都度、添えるよう努めていく必要あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のADLが金銭の自己管理が難しく、また、ご家族の要望もあり、日常的に金銭の自己管理はしていない。外出時の買い物時などのできるだけ、ご利用者に支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に携帯電話を所有しているご利用者が1名。他の方は希望にできるだけ添うようにご家族に電話していただいている。日常的な手紙のやり取りのほか、年賀状をご家族あてに書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔を保つよう努力している。季節に応じた壁面飾りなどを工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置に工夫し、グループや個人で自由に過ごせるような配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物を持ち込んでいただき、慣れ親しんだ空間作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身でできる事を増やせるように整備している。 (トイレの場所、ご自身の居室の理解)		

自己評価および外部評価結果

おとめ座

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの基本法方針を基に、年間のケア計画を立て実行している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春と夏に施設のお祭りをを行い、施設を開放している。 また、そうめん流しや花火大会など近所の方に声をかけ参加していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の勉強会を開催し、ご家族や民生委員、介護保険課の方に参加していただき、認知症の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議で、出された意見は日々のケアに反映されるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川口市介護保険課や戸塚地域包括支援センターと連携し、事業所の運営やケアの内容について助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義に関しては、職員は十分に理解し、また、他の職員のケアに対しても気を配っている。交通量が激しい道路に隣接しているため、事故防止のため玄関には施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会を通じ、勉強会を行い、周知に努めている。虐待の定義に関して職員は十分理解しており、また、他の職員に対し、お互いにチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料を作成し、各ユニットに配布している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が契約事務・説明を実施し、理解納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置および運営推進会議に参加していただき、ご意見をいただいて施設運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族の意見などは全体会議、ユニット会議、毎日の申し送り等して話し合い、反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課と目標管理シートによって個々の勤務状況を把握し、目標を達成できるように支援している。 また、職場環境・条件の整備にも努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会で各種研修会の案内や介護に関する資格の内容を案内したり、外部からの講習会や研修会案内を回覧し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との事業交流(ソーマ流し・納涼祭等)や見学を行い情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご利用者の自宅や入院先などに伺い、直接、ご利用者から不安なことや、ご要望を伺い、できるだけ安心して入居していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、初回ケアプラン作成時にご利用者、ご家族支援要望を職員相互で共有し、ご要望に沿ったサービスに努めるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、ご利用者にとって、最も必要とされているサービスを見極め、優先的に実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内では、食事作り、洗濯などをご利用者様と一緒にいき、ご家庭にいた時に近い生活環境になるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況報告や面会時にご利用者の状況を詳細に報告し、職員が媒介となって、御家族に認知症やご利用者に対する認識を深めていただき、共にご利用者のケアを実践していけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	3名のご利用者が携帯電話を所有し、居室にて自由にご家族や友人と会話を楽しまれている。ご家族や友人が面会に見えたときは居心地のよい環境作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作業をご利用者同士と一緒に出来るよう支援し、環境作りに努めている。食事席など楽しく、会話しながら食事ができるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先にお見舞いに伺ったり、移動した先の施設に面会に伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との些細な会話からでも気づいたことは職員間で知らせ合う雰囲気を作っている。ご利用者のお話を伺う体制作りに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートの内容を職員一人一人が把握するよう努めている。 入居後もご利用者との十分な会話の時間を作り、個々に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員それぞれで、よく現状把握に努めている。フロア会議などを通じ情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議などを通じ得た情報は、ケアプラン会議の場で十分話し合い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録と朝の申し送りによって、個々のご利用者の様子や変化を職員同士で共有している。 月に一度のフロア会議の場でも話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	花壇を利用した野菜作りや、駐車場スペースを利用したそうめん流し、花火大会などのサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	和太鼓、アニマルセラピー、アロマセラピーなど地域で活動されている方にボランティアに来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携している益子病院と密に連携を取り、必要な場合十分な医療サービスを受けられる環境にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の情報は常に看護師に報告されており、必要な助言をもらっている。受診時に看護師が同席し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	系列の益子病院と緊密に連携しており、医師、看護師、MSWとご利用者の病状に関して情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「看取りに関する指針」に関して説明を行い、ご家族の意向を確認している。 医師、看護師と連携し、できるだけご利用者、ご家族の意向に沿うよう努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応手順書を各フロアに掲示し、リスク・教育委員会の会議も1ヶ月に1回行っている。 また、教育委員会を中心に勉強会も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を、戸塚消防署支所の協力のもと行っている。 リスク委員会において非常用の物品の整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育委員会において接遇の勉強会を行いまた、フロアー会議においても話し合うなどして取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のお話を良く伺い、対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がそれぞれご利用者とコミュニケーションを通じて、希望に沿って支援するように話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの洋服等、入洋の準備時にできるだけご利用者に選んでいただいている。2か月に1回の訪問理容時でもできるだけご利用者の意向に沿ってカットやヘアカラーを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日にはご利用者にリクエストしていただいてご本人の好物を提供している。普段は味噌汁作りや盛り付け、後片付けなどできるだけご利用者と一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は系列の介護老人保健施設の管理栄養士が栄養のバランスを考えた物を提供している。食事量や水分量は毎回チェックしている。アレルギーだけでなく、ご利用者の好き嫌いにもできるだけ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方はまめに声かけし、介助が必要な、職員が見守り介助にて、毎食後、必ず口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、トイレにて自尿を促す努力を続けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医とよく相談し、また、食事前に各種体操を行うなどの取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご利用者の体調や気分によって柔軟に対応している、入浴の時間や順番は極力、ご利用者の希望に極力添うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	あくまで、ご利用者の生活リズムを尊重した上で、日中のベッド臥症や離床の声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後の服薬は、服薬表をつけ、誤りのないよう管理している。 症状の変化は、常に職員通同士で情報を密にし、主治医に相談するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ちぎり絵などの製作や、各種のゲーム等レクリエーションを行っている。 また、食卓準備や片付け、洗濯物を干したり、取り込みなどの生活の中の作業を本人の希望で行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出表を作って、できるだけ全てのご利用者が、散歩など外出をより多く楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望とご家族の了解がある方は数千円程度の現金を所持していただいている。 他の方は旅行の際などに500円程度のお小遣いを所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用の状況により、携帯電話を所持される方もおり、また、希望があれば施設の電話を使用してご家族や友人とお話していただいている。手紙のやり取りも自由に行っていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常にフロアや居室の清掃に留意し、フロア会議での話し合いにより、常に危険な物がないかチェックしている。 季節ごとのフロアの飾りつけをご利用者と一緒に行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の相性を考え、声かけなど工夫している。 ご利用者のコミュニケーションのため、職員が間に入るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、ご自宅に近い環境に居室をしつらえている。こたつやタンス、仏壇などご自宅で使用していたものを持ち込んでいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の動線に配慮し、転倒などの事故防止をしながら、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。		